

和文抄録

高校運動部活動における顧問教員の行動特性と生徒の自主性との関係の検討 —硬式野球部を対象に—

順天堂大学
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4118020
氏名：下川原 龍馬

【目的】

本研究は、高校運動部活動の硬式野球部において、顧問教員のどのような行動特性が生徒の自主性育成に効果的であるかを明らかにする。

【方法】

研究は、高校硬式野球部員3年生(男女)701名を対象とし(そのうち分析対象は274名)、郵送法による質問紙調査を実施した。質問項目は、顧問教員(監督)の行動特性を測る項目、生徒の自主性を測る項目、生徒の性格特性を測る項目を援用し、顧問教員(監督)の行動特性と生徒の自主性の関係を検討するために相関分析、重回帰分析を行うとともに、生徒の自主性と性格特性の関係を検討するための相関分析も行った。

【結果】

相関分析の結果、顧問教員の行動特性が生徒の自主性の「判断力」、「独立性」、「新規性」、「自発性」に関係していた。さらに、重回帰分析の結果、「観察力」が「判断力」に正の影響を、「独立性」に負の影響を、「生活指導」が「判断力」と「自発性」に正の影響を、「自律性支援」が「新規性」に正の影響を及ぼすことが確認された。

【結論】

顧問教員(監督)の行動特性の中でも、「観察力」、「生活指導」、「自律性支援」の3つが自主性の育成に最も影響を与えることが示唆された。また、「観察力」については「独立性」に対して負の影響が確認出来たため、顧問教員(監督)が生徒の状況を把握し、「観察力」を実践するべきかどうかを判断する必要があることも示唆された。